

～市内3高校の在り方について考えよう～

「3高校の未来を考える会」を開催します

特色を有する高等学校が3つ存在することは丹波篠山市の大きな財産です。しかし、市内の中学生が市外の高校への進学を希望する割合が増加し、市内3高校への進学率も減少しています。そこで、市では、市内3高校の今後の在り方考える「市内高等学校在り方検討会」を設置し、協議を重ねてきました。今回は、市内高校に係る取り組みや在り方検討会の設置に至った経緯、検討会での意見などについて、市民の皆さんにお知らせするとともに、共に考えていきたいと思います。

問い合わせ 総務課 ☎552-5111

「3高校の未来を考える会」開催日程

2月6日(火)から23日(金)まで市内の5地域で、考える会を開催します。

「市内高等学校在り方検討会」の設置の経緯や検討会での意見を丁寧に説明し、皆さんのご意見をお聞かせください。どうぞ、気軽にお越しください。

問い合わせ
総務課 ☎552-5111

日時	地区	会場
2月6日(火) 19時～	西紀地区	西紀老人福祉センター・健康教育ホール
2月8日(木) 19時～	丹南地区	丹南健康福祉センター・研修室
2月14日(水) 19時～	今田地区	今田まちづくりセンター・集会室
2月16日(金) 19時～	城東・多紀地区	城東公民館・第一研修室
2月23日(金・祝) 13時～	篠山地区	丹波篠山市民センター・催事場①②

近年、市内の中学生が市外の高校への進学を希望する割合が増加する傾向にあり、市内の高等学校においては入学希望者が募集定員に満たない状況が続いています。市では市内で安心して高等学校教育までを受けられる環境を守っていくために、路線バスルートの見直しを行ったほか、高等学校の魅力づくりへの支援や市広報紙への特集記事の掲載、地元進学を啓発するポスター掲示などに取り組んできました。

このようなか、令和4年3月に兵庫県教育委員会において、県立高等学校教育改革第三次実施計画が策定され、県立高校の発展的統合が進められることになりました。そこで、市もその動向を注視しながら、市内3高校の将来の在り方について考える「市内高等学校在り方検討会」を設置しました。

検討会では、各高校の同窓会やPTAの代表をはじめ、小・中学校校長会の代表やPTAの代表者、公募委員など、多くの方に参画をいただき協議を開始しました。分科会では、各委員から子どもたちから見て選択される高校は②地域から見た望ましい高校は③望ましい適正な高校数は④項目について意見をいただき、全体会で報告を行いました。

今後は市内5地域で、市内高校に係る取り組みや、在り方検討会の設置に至った経緯、検討会での意見などについて、考える会を開催し、市民の皆さんと意見交換を行います。

市内高等学校在り方検討会での意見(中間報告)

1 子どもたちから見て選択される高校は



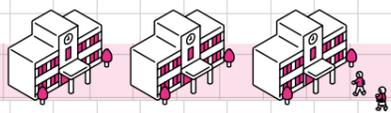
- 1 自分に合った進学・就職先が選択でき、進学をめざした勉強や希望する仕事に就くための専門的な知識や技術を学ぶことができる
- 2 希望する部活動が充実し、選択できる
- 3 明るく、楽しい雰囲気がある
- 4 学校行事、制服、修学旅行先、他校との交流なども魅力

2 地域から見た望ましい高校は



- 1 地域資源を活用して、地域文化の継承や地域と連携した取り組みを行い、地域を支える人材を育成している
- 2 生徒に活気や元気があり、あいさつ等のマナーが良い
- 3 勉強やスポーツ、部活などで活躍している
- 4 地域の活気の源である

3 望ましい適正な高校数は



- 1 現状の3校を維持することが理想的であるが、定員割れの状況や将来の子どもの状況、兵庫県教育委員会の高校教育改革方針からみて維持することは難しく、現実的ではない
- 2 統合を考えると、篠山鳳鳴高校と「篠山産業高校+篠山東雲高校」、「篠山鳳鳴高校+篠山産業高校」と篠山東雲高校の2校といった方法が考えられるが、2校にしたとしても、その何年か後には、今回と同様の問題が生じることが目に見えている
- 3 将来を見据えて3校の特色は残しつつ、3校を統合して新たな総合学校(県立高校)を設置し、いろいろなことが学べ、勉強・部活・ボランティア・地域活動もでき、活気があり、魅力ある学校をめざしていくべきである(多数意見)
- 4 以上に対し、同窓会は高校の発展を願い活動している。母校愛は強く、3校とも残していくべきであるとの強い意見もある

県立高等学校教育改革第三次実施計画(抜粋)

県立高等学校(全日制)の望ましい規模と配置

【基本的な方向性】

少子化にあっても、多様で活力ある教育活動を維持するために、

- ・普通科・総合学科で1学年6～8学級
- ・職業学科の単独校で1学年3学級以上

の望ましい規模となるよう、原則、発展的統合によりその規模を確保し、配置を検討する。

一方、発展的統合を行わず、現行の規模等を維持する学校の中で、1学年1学級となった学校においては、入学者が生徒定員の2分の1(20人)に満たない状況が2年続き、その後も生徒数の増加が見込めない場合は、原則として募集を停止する。

兵庫県内125の全日制県立高校のうち、28校を統合して13校に再編します。

2028年度は12校を6校に再編予定で、対象校はその3年前に公表されます。

- ・阪神地域 = 2校 → 1校
- ・丹有地域 = 4校 → 2校
- ・東播磨地域 = 2校 → 1校
- ・中播磨地域 = 2校 → 1校
- ・西播磨地域 = 2校 → 1校